

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 1 月 17 日作成)

| | | |
|------------------------------|---|---|
| 小委員会名 | 住宅の地方性小委員会 | 主 査 名：佐藤由美 就任年月：2017 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 建築社会システム委員会 | 委員長名：田村誠邦 |
| 設 置 期 間 | 2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>本小委員会は、下記の 3 点を中心に、地域の住まいづくりや居住政策に関する共同研究と研究情報交流を行うことを目的として設置する。</p> <p>1) 風土性に基づく住宅の地方性の探求 2) 都市レベルの社会経済状況に基づく住宅の地方性の探求 3) 地方自治体の住宅・居住問題の把握と政策への提言</p> | |
| 委員構成 (委員名 (所属)) | 委員公募の有無：無 | |
| | 佐藤 由美 (奈良県立大学)、菊地 吉信 (福井大学)、吉田 友彦 (立命館大学) 馬場 麻衣 (北方建築総合研究所)、佐藤 慎也 (山形大学)、長谷川洋 (国土技術政策総合研究所)、川崎 直宏 (市浦ハウジング&プランニング)、阪東 美智子 (国立保健医療科学院)、葉袋 奈美子 (日本女子大学)、内海 康也 (国土技術政策総合研究所) 碓田 智子 (大阪教育大学)、平山 洋介 (神戸大学)、澤田 廉路 (鳥取大学) 川田 菜穂子 (大分大学)、小山 雄資 (鹿児島大学) | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | 地域住宅統計情報WG ：住宅政策の検討や推進にとっての基礎となる地域の住宅統計情報（住宅・土地統計調査及び住生活総合調査を中心に関連する統計調査）について、調査の項目や内容・集計解析手法、政策・計画への活用方法等に関する研究・検討を行う。 | |
| | 住宅市場政策WG ：住宅政策の枠組みの大きな変化を捉え、市場メカニズムを活用した住宅政策の最近の流れを検証し、今後の住宅市場のメカニズムを活用した住宅政策のあり方を展望していくことを目的とする。 | |
| | 住まい・まちづくり学習WG ：住まい・まちづくり学習にかかわる学校教育や住宅政策の変化に対応しつつ、学校・地域・自治体・事業者・住み手等の参加と協働による住まい・まちづくり学習を展開していくための方法論や実践について研究することを目的とする。 | |
| 2017 年度予算 | 60,000 円 | ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv. aij. or. jp/keizai/ chihosei/ |

| 項 目 | 自己評価 |
|---|-----------------------------|
| 委員会開催数 | 3 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画 | |
| 大会研究集会 | 1. 研究協議会「建築の終活を考える」 同名資料 |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |

| | |
|--|---|
| <p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 定例の春季研究会(滋賀)において、全体研究会2回(大津市・近江八幡市)・視察等を3日間にわたって開催した。また、大会時に広島・尾道市において、全体研究会1回・視察を開催した。また、小委員会通信を年1回発行した。 2. 拡大委員会として、「協同の住まいと社会関係資本 イングランドとオーストリアの比較研究」を公開で開催した。 3. 2017年度大会時(中国)に研究協議会を共催した。 4. 地域住宅統計情報WGにおいて、統計情報に関する意見収集・とりまとめを行うとともに、国土交通省との意見交換会を開催した。 5. 登録メンバー情報の更新を行い、新規メンバーの参加を図った。また、情報交換のための掲示板ソフトの活用を試行した。 |
| <p>委員会活動の問題点 ・課題</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員・登録メンバーともに全国各地の研究者・実務者から構成されることから、研究情報の交換等を円滑に行うことが課題。 |

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。